

## 地域課題探究型学習モデル校の取組

越生高校・・・・・・・・・・40  
北本高校・・・・・・・・・・42

## 県立越生高等学校

### テーマ 越生高校や生徒の出身中学校近隣地域の公共施設等における職業体験

#### 1 教育効果・目的等

職場体験の教育効果・目的等は以下の3点である。総合的な探究の時間を中心に、「総合的な学習」委員会中心となって企画し、学年団と連携して実施している。

- ・公共施設等における職場体験等を通して、社会性やコミュニケーション能力を高める。
- ・地域の課題を考え、主体的に地域社会に参画する態度を養う。
- ・働くことの大切さを学び、卒業後の進路や将来について考える契機とする。

#### 2 実践内容

##### (1) 調べ学習

生徒の希望職種が決まったところで、その職種について調べ学習を行った。体験前に調べることで、その職種にはどのような職場が地域にあるのか、生徒自身が行く職場がどのようなものかを理解し、職場体験についてイメージできるようにした。

##### (2) 電話かけのマナー学習・職場への電話連絡

生徒が実際に職場体験に出かける前に事前打合せに伺った。事前打合せの依頼・日時の決定を生徒が電話でアポイントメント（決まった時間・場所で何かを行う予約）をとった。言葉遣いや電話のマナーの指導を受けてから実際に電話をかけるようにした。

##### (3) マナー講座

外部講師から社会に出るためのマナーや言葉遣いを学び、初対面の人や目上の人からも良い印象を与えられるように、挨拶・礼儀などを学習した。

##### (4) 職場訪問・打合せ

生徒が体験をする職場に事前打合せに伺った。学習したマナーや言葉遣いを実践し、職場体験に向けての準備を行った。

##### (5) 職場体験

3日間の体験をやり切れるようにするために事前準備をしっかり行い、10月23日（水）から10月25日（金）の3日間の職場を体験した。



スーパーでの商品整理



消防署体験



福祉施設での体験

#### (6) 職場へのお礼状作成

お世話になった職場にお礼状を作成した。社会人としてのお礼状のマナーを学習して、心のこもったお礼状の作成に努めた。

#### (7) インターンシップ発表会

各自が経験してきた職場体験内容をまとめ新聞を作成した。作成した新聞をもとに発表を行い、自己評価と他者評価を行った。

### 3 実践の成果

生徒が職場の方との関わり方について、とても不安を抱えていたが、職場の方々が親身になって接していただいたこともあり、前向きに取り組むことができていた。その環境の中で必要なマナーや働くことの意味・大切さを学び、学校の中にはない貴重な体験を通して、達成感と成功体験が得られた。

また、体験後に体験内容を新聞にまとめ発表したことにより、生徒自身が感じたことをまとめる能力や相手に伝える能力を向上させることができた。

地域の職場からの声は以下のようなものがあった。

- ・職場体験はとても意義のある経験だと思います。少なからず、自分が将来就きたい仕事について、高校生の年代は思い描いたり、調べたりするとは思いますが、自分が想像しているイメージと実際の現場は、同じ部分もあれば違う部分もあると思います。体験を通して自分自身の将来像について改めて考えるきっかけになると思うので、良い体験だと思います。
- ・自分自身の出身市町村地区にある職場を体験し、将来の職業選定にさせていただきたいと思います。
- ・働く環境、対人関係などを学び、体験する場として学生たちにとって貴重なものであると思います。
- ・生徒自身が小学校時代に過ごした場所を、改めて訪れることにより生徒自身の成長を感じることができ、今後の進路に良い影響与えることができる。
- ・今回は卒園児が1名来ていて、体験学習をしている姿から成長を感じることができて良かったです。

### 4 課題と今後の展望

生徒を引き受けていただける施設に限りがあるため、生徒が希望する地域や職種の調整が難しい部分がある。また、体験先も他の団体の体験の受入れと重なることもあり調整していくことが必要である。今後も困難が予想されるが、受け入れていただいた職場からも生徒に対して成果があるとの声もあり、学校行事と職場との調整をしながら取り組んでいく。

# 令和元年度 地域課題探究型学習モデル 実践報告書

県立北本高等学校

テーマ「つながる未来への社会参加」

## 1 教育効果・目的等

本校は昭和50年創立の全日制普通科高等学校である。北本市に唯一の県立高校であり、そのため地域との繋がりも密接である。K I S E P（北本市小・中・高相互交流事業）では、市内小・中学校との連携を積極的に行っており、地域と共に歩む高校として交流事業を計画的に推進している。

本校では、そのような地域との関わりを背景として、地域に関わる探究的な学びを行い、自己の在り方を考えながら、以下の3点のような課題の発見と解決に取り組む力を養いたいと考えている。

- (1) 地域に関わる探究の過程で、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付けさせる。
- (2) 地域と自分自身の関わりから、問いを見出し、その解決に向けて仮説を立てたり、調査して得た情報をもとに分析したりする力を身に付けるとともに、論理的にまとめ、表現したりする力を身に付けさせる。
- (3) 持続可能な社会の実現を目指し、探究活動に主体的・協働的に取り組むとともに、住みよい街づくりに積極的に貢献しようとする意欲・態度を育成する。

## 2 実践内容

### (1) 社会参加への取組

北本市では「第五次北本市総合振興計画後期基本計画」を策定するに当たり、市内に所在する企業の若手経営者や社員参加のもと、企業と連携したまちづくりのアイデアを出し合うという「若者会議」(第1回)を令和2年1月23日(木)に開催した。10代を代表する若手の意見を反映させたいという北本市側の意向で、本校生徒6名がこの会議に参加した。



若者会議① 全体風景



若者会議② 講演の様子

当日は、市長自らパワーポイントを用いて、北本市と縄文時代を繋ぐ視点のお話があり、大変興味深かった。また、MS&AD インターリスク総研株式会社の原口様より、「SDGsを道しるべとする 21 世紀型経営への変革 ～未来から選ばれる地域と企業になるために～」をテーマとした講演があった。非常に大きなテーマであり、日常の思考の枠組みを揺り動かして発想を大きく羽ばたかせるには十分な内容であった。

全体会の後は、グループごとにワークショップを実施した。それぞれの自己紹介の後、各自の立場からの簡単な意見交換を行い、令和2年2月19日（水）に行われる第2回会議への布石とした。



若者会議③ 市長による講演



若者会議④ ワークショップ

## (2) 地域行事参加への取組

年間を通して、本校の生徒が地域行事に関わる場面はかなりの数になる。主なものだけでも、4月のさくらまつり、5月の水辺まつり、9・10月の秋祭り、スポーツフェスティバル、11月の宵まつりなどが挙げられる。また、自治会関係の行事もここに加わる。参加者は行事ごとに異なるが、生徒会生徒、JRC部生徒、吹奏楽部生徒、和太鼓同好会生徒、茶道部生徒、華道部生徒、軽音楽部生徒、有志の生徒など多岐にわたった。

宵まつりでは、本校生徒が「ねふた山車」のデザインから制作までを行い、まつり当日に皆で山車を引いた。生徒たちは制作の過程で地域の伝統文化に触れ、主体的に関わることによって地元の伝統文化を深く知り、地元観光資源の活性化にも大きな役割を果たした。また同時に、世代の異なる人々との触れ合いが、生徒のコミュニケーション能力を高め、社会に関心を持ち、積極的に関わっていく大きな契機となった。



宵まつりの様子

地域の民謡協会の方が来校し、尺八や三味線などの和楽器を丁寧に指導してくださいました。生徒たちは初めこそ戸惑いも見られたが、普段は手にしない楽器の奥深い音色の魅力に心を奪われているようであった。



民謡協会の方による尺八の指導



民謡協会の方による三味線の指導

北本市自治会創立40周年記念式典の際には、本校から吹奏楽部と和太鼓同好会が演奏を依頼され、多くの観衆の前で日頃の練習の成果を生かすべく、堂々とした演奏を行った。



創立40周年記念式典での和太鼓の演奏

### (3) 安心安全なまちづくりへの取組

本校では、喫煙防止キャンペーンや秋の交通安全キャンペーンなど、市役所や地元警察と力を合わせて、市民の安心安全な、まちづくりの一翼を担っている。毎年12月には、生徒が制作したマスコットを配布して、交通安全を呼び掛けている。

地域の中に積極的に溶け込み、地域の方々と親交を深める経験は、生徒の成長にとって貴重な内的財産となる。



秋の交通安全キャンペーン

## 3 実践の成果

地域の中に生きる一人として、積極的に地域と関わる中で、生徒の自己肯定感が高まって

きた。ともすれば薄い自我に怯え、より頑なに心を閉ざしがちな生徒たちが、身近なことに自分から進んでチャレンジする様子が見て取れるようになった。「難しい」「ムリ」の一言で他者との心の繋がりを遮断することの多かった生徒たちが、少しずつではあるがもう一歩を進める勇気と喜びに気づき始めている。

地域が支え、子供たちが笑顔を輝かせる。笑顔が響き合う温かな交流の中にこそ、生きることの原点があるのではあるまいか。地域との交流は、効率化の名のもとに失われつつある人間疎外を見事にあぶり出す鏡であり、再生への道標と言えよう。

#### 4 課題と今後の展望

本校はこれまで北本市との多くの関わりの中で地域交流を進めてきた。その成果は、入学後の生徒たちの活躍と生徒たち自身の前向きな取組によって推し量ることができる。今後は、さらに全校生徒レベルでの取組を浸透させ、深めていくことが重要である。そして、地域を支えるリーダーとして問題意識を持ち、自分の言葉で思考し行動に移せる生徒を本校から輩出していきたい。

